

それから家に入り、母マリアとともにいる幼子を見、ひれ伏して礼拝した。そして宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。マタイの福音書 2章 11節

マタイの福音書はユダヤ人に宛てて書かれ

たと伝えられています。興味深いのは、書の冒頭と終わりに異邦人(外国人)を意識した記述があることです。マタイの福音書においてイエス様を最初に礼拝したのは、イエス様を「ユダヤ人の王」と呼んだ東方の博士たちでした。イエス様が十字架で死んだとき「この方は本当に神の子であった」と告白したのはローマの百人隊長でした。そしてイエス様ご自身の言葉「あらゆる国の人々を弟子としなさい」でマタイの福音書は閉じられています。これらが示すことの1つは、主はすべての国の人をご自分のもとに招いているということです。生まれや立場の違いがキリストの救いを分けるのではないと

いうことです。

主は私たちを招いて何を望んでいるのでしょうか？

それは招かれた私たちが主を礼拝することです。マタイの福音書はまず救い主イエス様の誕生を伝え、続いて東方の博士たちによる礼拝が記されます。つまり、「神の民」「信仰者」の第一は礼拝にあるということです。この書は教会についても語っていると言われますから、教会の中心は礼拝である、とも言えるのです。

東方の博士たちは礼拝者の姿を示します。昔、バビロン捕囚でユダヤ人がバビロンに連れられたことで救い主待望の信仰も伝わりました。博士たちはそのことを知っていたのです。主は

救い主誕生を星によって知らせ、博士たちはその星に導かれました。主が彼らを招いたのです。礼拝者は主に招かれて礼拝に向かいます。

彼らはイエス様の前に「ひれ伏し」ました。

そこで贈り物を「献げ」ます(11)。神の前に「ひれ伏すこと」と「献げること」は、礼拝者が礼拝者であるための大切な心です。この心なしに真の礼拝はさきげられません。

東方の博士たちと対照的な残念な人物を聖書は記します。ヘロデ王です。彼は自分の地位を守るためにイエス様を亡き者にしようとしてしました。でも彼は口先では「私も行って拝むから」(8)と言います。その心にあったのは主を礼拝することではなく自己実現でした。

私たちはヘロデのような上辺で生きるのでなく、博士たちのように心が行動に出る礼拝者でありたいものです。(泰)

■次週「ペンテコステ」

旧約時代には「五旬節」と呼ばれ、「過ぎ越しの祭り」から数えて50日目にあたる。小麦の収穫を祝う「春の収穫感謝祭」でもある。

キリストは「過ぎ越しの祭り」の時に十字架で死に、3日目に復活した。それから50日目の日曜日に「聖霊」が下られたので、キリスト教会ではこれを記念している。

ペンテコステはまた、「教会の誕生日」とも呼ばれる。ここから、神の救いの「収穫の時代」が始まったのである。

(参考 いのちのことば社 刊
すぐに役立つクリスチャン生活百科)

*ペンテコステ礼拝 説教 石田敏則牧師

*主任牧師就任式 荻野泰弘牧師の蒲田教会主任牧師について就任式を行います。

■5/9礼拝出席者数報告

第1礼拝 19名

第2礼拝 11名

小学科礼拝 小3名 中高7名

■ネットによる礼拝映像配信について

礼拝堂に一堂に会することを控えるのはこれで3回目となります。この状況でも礼拝映像をネット配信し、場所は異なっても共に礼拝をささげられることはとても感謝です。主はどんな困難のときも脱出の道を備えてくださいます。幸いなことにネット配信を始めたことでこれまで来会が困難だったご高齢者や遠方の方が蒲田シオンの礼拝に加わっています。厳しい状況でも主が恵みを注いでくださいます。また、教会に興味を抱いている方がネットを通して教会や礼拝の様子を知る機会になることも伝道の観点から望ましいことです。

一方で礼拝のネット配信についての危惧も指摘されています。礼拝の心、神を敬いその御前にひれ伏すという心が薄れていないかということです。自宅で礼拝に出ることがお手軽感を生み、主にささげるという意識が希薄となり自分本位になっていないかということです。それは私たちの霊のいのちを失いかねない危険なことです。

サタンは私たちの心の隙に働きかけます。神様が与えてくださった道具を助けとして上手に用いながら、この有事にあっても信仰を守っていきましょう。そのためにも、どのような形であれ礼拝者として神の御前に立つという心構えを大切にしましょう。